

令和2年度第2回池田町まちづくり会議 報告書

日時等 令和2年8月20日(木)午後6時00分～8時30分、西部地域コミュニティセンター
出席者 まちづくり会議委員25人(34人中) 会議の開始時点：25名
町担当課長等8名、町事務局(企画財政課)5名

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 報告(説明)事項

7月29日に開催の前回会議、協議終了後の「その他」におきまして、次回のまちづくり会議の場において、町議会から説明を求めたいとする意見が出されました。

内容は、会議報告により委員の皆様へも送付させて頂いておりますが、一つ目として、総合計画や各種計画等における町議会の審議にあたっては、まちづくり会議や住民参画による各種会議等の審議経過を十分尊重し、判断、審査を行って欲しいとする意見、二つ目として、6月に開催された町議会において審議された 農業委員の任命に係る件について、その審議の経過等に対し、説明を求めたいとする意見でした。

本日、町議会から丹羽議長にご出席頂いております。会議の最後の部分になりますが、町議会からのご報告、ご説明を頂くこととしますので、よろしくお願い致します。

4. 協議事項

(1) 地域づくりの方向性の検討(意見交換) (18:15～19:55)

前回の会議において、総合計画の策定に向けた、各分野、施策の現状や課題、改善・解決の方向性などについて、部会に分かれ、約1時間、意見を出し合っていました。今回は、その続きとして、進めて頂ければと思います。<会議の進め方の説明、記載省略>

専門部会の部会長と副部会長の選出

池田町第5次総合計画 施策体系(案)に基づく協議、意見交換

施策体系(案)に基づき、日頃感じている現状と課題、対応方向などについて、前回(7/29)に引き続き、協議・意見交換を行いました。協議の内容(意見等要旨)は、別紙のとおりです。

5. その他

6. 次回の開催予定

9月8日(火)、昨年度実施した住民アンケート調査を集計・分析事業者から、アンケート調査結果の分析結果とその計画への反映手法等を説明して頂き、その後に会議を行います。

5. その他：町議会からの説明(質疑応答) (20:03～20:29)

(別紙のとおり)

7. 閉会(20:30)

(令和2年8月20日令和2年第2回池田町まちづくり会議)
専門部会協議結果報告：保健福祉、教育部会【保健福祉】

1) 出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

神谷委員、中村委員、米倉委員、小山委員、鈴木委員

2) 出席状況：町職員等

鈴木福祉課長、高畠保健子育て課主幹、佐々木企画統計係長

3) 協議の内容

部会を2つに分け、前回に引き続き、基本目標「保健、医療、福祉、子育て支援分野」及び「教育、文化スポーツ分野」のうち、「保健、医療、福祉、子育て支援分野」を中心に協議した。

保健

司会) 保健施策については、近年は、お知らせ内容等もかなりきめ細かく説明しており、必要に応じ随時事業内容の見直しも行っている。この10年間でそれらはかなり進んだと、職員としては思っている。課題として、生活習慣病の割合が増加しており、生活習慣の見直し、若年層の健診受診率の向上が必要としている。

委員) 時代が変わっても、保健施策に係る現状と課題は変わらない。ただ、より濃く、コアになっていく。40歳代の健診受診率向上を課題としているが、どのような状況なのか。

職員) 特定健診の受診率向上に向け、ポロシャツ着用やごみ袋配布、ポイント付与などの取り組みをしているが、受診率向上への効果は実感できていない。

委員) 農業者は農繁期中の巡回ドック参加は難しい。農閑期を中心に厚生病院を受診している人が多い。11月頃が良い。

委員) 農業者は、忙しい時期に受ける必要性を感じない。冬で良いかと思っている。

委員) 脳ドック、日程があまり多くない。日程を合わせることも難しい場合がある。

職員) 脳ドックは希望者が多く対応できない状況を改善するため、人数を増やした。現状では少し余裕がある状態となっている。

委員) 厚生病院で受けると、オプション健診もあり、1日ですべて終わるため、それが良い。

委員) 何故受診率が低いのだろうか。職場での健康診断や、農業者も農閑期に厚生病院を受診している人が多いと思うし、通院に合わせて検査している人も多いと思う。

職員) 健診受診率の確認方法を再度精査したい。

委員) 健康に関する意識は低くないと感じている。受診率が低いとしているが、何故低いのか、何が低いのか、そこまで検証したうえで、対応策を検討したい。

職員) 健診の受診率の高低では測れないため、受診率を上げることより、個々の健康教育にどう対応していくかに注力すべきと感じている。

委員) 「低い」との指摘だけではなく、何故低いのか、検証結果を住民に分かりやすく伝えていくことが必要ではないか。

委員) なかなか機会がないだけで、個別に健康相談する機会があれば、相談したいことはそれぞれ持っているのではないか。

委員) 農協女性部では、毎年健康教室をお願いしている。他の団体も行っているのだろうか。

委員) 商工会でも行っている。

職員) 町内会や各種団体から要望を受け、毎年多くの健康教育を行っている。ただ、内容は各団体の意向により、受け身の体制になっているのは事実であり、本当に必要な内容とはなっていないかもしれない。

委員) 行政として、本当に伝えたいこと、必要な情報を伝えていくことが必要と思われる。

医療

司会) 医療施策について、町内の医療・診療体制と、町立病院でもある地域医療センターの役割、大きくその2本で現状と課題を整理している。

職員) 前回、地域医療センターの外科外来が午前中となっていることを改善してほしいとの要望を受けた。子供がけがをするのは午後が多いとの指摘はその通りで、午後に診療の検討を続けたい。

委員) 厚生病院や協会病院へ通院する人も多いようだが、それで池田町内への通院者が少ないという実態はあるのだろうか。

職員) 個々人の選択であり、好き嫌いもあるので、皆が近所の病院を受診することにはならないかと感じている。本年は、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に収益が減少している状況にある。ただ、池田町内には入院できる病院のほか、診療所や歯科医院もそれぞれ複数あり、高島診療所も含め、近隣の町村に比べると、医療環境は充実している。人工透析は、8床の3回で24人を受け入れている。7割が池田町民で残りは近隣町住民となっている。池田町民を優先すべきとする声もあるのも事実であるが、東十勝地域の中核病院としての役割も併せ持っている。現在、3人ほど他市町村への受診を余儀なくされている町民もあり、増床が必要となっている。

職員) 皮膚科は、1日20人制限となっているが、患者数が多く、診察人数を増やすことが求められている。眼科もとても良い先生であり、月2回だが大変混雑している。

(眼科 : 第2・第4金曜日午前午後、第2・第4土曜日午前予約のみ)

(皮膚科 : 第2・第4木曜日午後)

福祉(地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、社会保障)

司会) 福祉施策について、特に高齢者福祉に関しては、この10年で、ふまねっとやロココなど、社会福祉協議会や老人クラブ活動による自主的な介護予防活動が進んだと感じている。

職員) 福祉施策は3つに分かれているが、複雑にからみ合うケースがほとんどとなり、総合的な対応が従来にも増して求められている状況となっている。

委員) 地域包括支援センターについて、十分に浸透していない。

職員) 保健センター内に地域包括支援センターがあり、医療センター、ふれあいセンターなどと混在し、分かりにくいと感じている住民も多いのかと理解している。「池田町には地域包括支援センターはない」という誤解も受けることがあり、分かりやすく説明していくことが必要か。

委員) 障がい者団体でも、障がい者手帳を受けた人が分からず、団体への勧誘もままならない。障がい者手帳交付時にも団体の紹介と加入の推進について協力してほしい。

職員) 近隣町村でも高齢化等を理由に解散している団体も多いと聞く。

職員) 池田町は、老人クラブ等高齢者による活動は、近隣市町村に比べ従前より活発との印象がある。各団体への加入の推進も、確認したい。

委員) 個人情報保護により、地域コミュニティ活動の実施にあたり、人との関わり方が変わった。やりにくさが強まっている。どのような情報も「個人情報」となってしまうため、行政で工夫してもらえないと感じている。

委員) 認知症の測定や相談も行われているし、バス送迎まで行ってくれるのに、北部地域ではあまり利用者が多くないと感じている。

職員) 北部地域は老人クラブもなく、高島市街地は高齢化率が著しく高い。なかなか参加しにくいこともあるのかもしれない。

委員) せっかく役場で実施してくれるので、参加した方が良いと思う。

子育て支援(制度・事業等、保育、障がい児支援)

司会) 子育て支援については、保育料の無償化など国の施策充実のほか、医療費の無償化、出産祝い金や育児支援金なども含め、取り組みを進めている。保育環境では、保育の低年齢化により池田保育園では一時的に待機児童が発生する場合もある。幼稚園も含めると量が充足しているが、高島小学校の統合も決定し、高島の保育所の行方も含めた検討が必要となっている。また、10年前の計画策定時でも、大きな遊具や水辺を備えた公園の整備要望が強く、今回の住民アンケートでも要望は強いが、財政面も含め、実現には至っていない。

委員) 千代田えん堤の公園は、あれで整備が終了したのか。

職員) 駐車場公園整備としては、細かなものを除き、終了した。

委員) 池田駅のトイレも使いやすいが、冬期間は使用できないのではないかと。

冬期間でも使用できます。

司会) 公園について、やはり必要性は高いのでしょうか。

委員) 清見ヶ丘公園は、パークゴルフが中心。中央公園もあるが、子どもを安心して遊ばせられる芝生公園ではない。

職員) 子育て中の時期には、やはり公園が欲しかった。遊具より、子どもを安心して遊ばせられる公園、小山がある程度で十分と感じていた。

職員) 利別小学校の統合も決定したため、統合後の跡地・施設利用も検討していく必要がある。それらも含め、公園整備の検討を進める必要がある。

委員) 何故、公園は整備できないのか。理由は何か。

司会) 必要性は役場内部でも共通していると思うが、財政面から実現に至っていない。財政に余裕があれば実現できるのだろうか...

全般

委員) 地域コミュニティでもリーダーが不在、出にくい状況となっている。

委員) 町内会活動も、活動内容が徐々に減少している。

(令和2年8月20日令和2年第2回池田町まちづくり会議)
専門部会協議結果報告：保健福祉、教育部会【教育】

1) 出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

尾西委員、豊田委員、阿部委員、堤委員、内藤委員

2) 出席状況：町職員等

永田教育課長、天野企画財政課長

3) 協議の内容

部会を2つに分け、前回に引き続き、基本目標「保健、医療、福祉、子育て支援分野」及び「教育、文化スポーツ分野」のうち、「教育、文化スポーツ分野」を中心に協議した。

小・中学校教育

委員) 池田町として小中学校教育の取り組みで目玉となる特徴的は施策が欲しい。児童生徒数の減少が課題で、将来的に、義務教育学校となっても270人程度しかいない状況がくる。管内で子どもが増えている上土幌町では、保育所や幼稚園からお金をかけて環境整備をし、一貫した教育をしているので子育てしやすいイメージが他町村からはある。芽室町は特別支援の子どもたちのケアを充実させ、生まれてから成人するまでの様々な学びの環境をつくってサポートしており、管外からも転校させたいとの照会がある。池田町でも特徴を出していかなければならない。

委員) 池田町ならふるさと教育はどうか。ワインや歴史的なものがあり、ふるさと教育をすることで心豊かな子どもを育てる教育を推進して、子どもを増やす方策はどうか。

委員) 義務教育学校のメリットは、小学校から中学校に上がると新たな学校で言葉遣いや学習態度、部活動があることなど全然違った生活になるが、それを小中が一緒になることで間近に見ることができて中学生になったときのギャップがほとんどなくなる。また、一貫して同じ方針のもと小学校から中学校まで学びができることがメリットである。

委員) 特徴あるふるさと教育は現在もやっていると思うところもあるが、池田町に住んでいるとわかりづらい。その特徴をもっとはっきり打ち出して明文化する必要がある。

委員) 子どもたちが少なくなっているための問題は、教育部会に限らず全部会にかかわることと考える。直線的に減少していく人口減は、本当にそうなのかと思う。何か働きかけることで減少を鈍くすることを考えることが必要で、それは教育部会だけでなく、各部会でできることを考えるべきである。

委員) 子どもを生み増やすことは難しいが、外から来てもらうことに成功している上土幌町や東川町は、産業構造上で集まるのではなく、町の政策、子育てしやすいが共通点である。池田町も教育について魅力ある町だと思うが人口は増えていない。

委員) 体育館の利用者は増えているのに、図書館の利用者が減っている。子どもたちの来館数が減っているが、魅力がないからなのか、人口が減っているからなのか、その辺の分析が必要と考える。

委員) 上土幌の人口増には、「住宅も職も準備します」と「子育てしやすいです」とアピールしたため。池田町としては、子どもが将来外へ出ていく時に、やはり池田が暮らしやすいという気持ちがあれば、帰って来てもらえる。例えば子どものころに楽しかった思い出があれば、池田に帰

- る気持ちにもなる。池田は帯広に近いので、仕事は帯広や幕別で、住むのは「やっぱり池田」というまちづくりをすべき。そのことで人口増になり子どもたちも増える。今後は、教育関係や福祉関係に力を入れていること、子育てしやすい住みやすい環境であることをアピールすべきと思う。いきなり企業誘致をたくさんすることは難しいので住んでもらうことをポイントにすべき。
- 委員) 学校でコミュニティスクールを進め、ふるさと、地域を学んでおり、それを発展させる。義務教育学校の方が特徴的なことができるが、今後、小学校と中学校が1校ずつになれば、もっと密接な教育活動ができると思う。
- 委員) 小学校同士のつながりが少ない、年に1回程度、2時間くらいの集まりでは十分な交流にならない。中学校に行っても高島のように小さな学校の児童は、なじめないでいることもあるのではないか。子どもたちで集り、交流する機会をもっと増やすべきだ。
- 委員) コロナウイルス感染症がなければ、中学校に集めた行事を考えていた。来年度は中学校と一緒に授業や行事などができればと考えている。
- 委員) 池田町の子どもたちの学力は管内で下の方である。人数が少ない学校なので、たまたま学力の低い学級で、勉強が苦手な子が10人いれば帯広市のような平均にはならない。分母が小さいと影響が違う。池田中学校の生徒は勉強に積極的に取り組んでおり成果が出始めている。大きな塾がないので、学校で放課後学習に取り組んでいる。
- 委員) 児童生徒数が少ないと競争がない。小学校3校に分かれると和気あいあいで学習などできる。100人以上いる学校では何でも頑張らないとやりたいことができない。人数が少ないとお互いに役割をつくってみんなでやろうとするので競争意識がない。中学校になれば、進学が見えてくるので競争心理が働く。そのためにも、もう少し子どもの人数が欲しい。
- 職員) 学校給食の関係でご意見は特になし

教育環境整備

- 委員) 中学校と池田高校との教員の交流を深めて、中学校から高校へ行きやすいように高校の先生が中学校で指導するようなことも考えている。コロナウイルス感染症がなければ実施する予定であったが、来年度以降、頻繁に相互に交流を図る考えである。町に高校があることは重要なことでその意義は大きい。

社会教育

- 委員) 遊ゆう大学では多くのサークルがあり、積極的な活動が行われている。今年はコロナウイルス感染症の関係で文化祭が中止で残念である。講演では聞き役だがサークル活動ではみんなが大活躍して、生きがいを感じており、また社交の場ともなっている。
- 委員) 年齢が高齢化しているが、現在60代はまだ現役である。元気な高齢者が増えているので、田園ホールを拠点にいろいろな活動ができ、活動後の交流もある。
- 委員) 池田町には、いきがい焼きなど独自の活動があり、田園ホールも便利な大きさと充実している。高齢者が楽しく暮らせる環境はいいと思う。
- 委員) 現在だれでも望めばスポーツができる状況があるので、体育協会は以前の団体としての意義も変わってきている。各団体の活動も高齢化しており、またスポーツする余裕がなくなっているのかもしれない。少年団も人数が減っており遊大のサークルとは違う状況になっている。スポーツと心身の健全化の発信力が不足していると思う。スポーツの大切さについての表現が欲しい。

委員) 図書館は指定管理になりよくなっていると思う。子どもたちが読みたくなる本がそこにあるのかという問題だけではなく、教育的な視点が必要ではないか。

委員) 中学校では、図書館と学校との連携は充実している。中学校では朝読書の取組を行っており、30年前よりはるかに読書に親しんでいる。図書館の利用者数や貸出数が減っているのは、現在の小中学生は時間が無くなっているからだと思う。学校も毎日6時間授業で、放課後の部活や土日部活動などで、本は読んでも図書館に行く時間が中学生は無くなっている。さらに、SNS、スマートフォン、タブレットの情報を見る楽しみも増えている。

委員) 読みたい本が池田の図書館になれば札幌からでも取り寄せてくれる。早くて対応がよい。

委員) 絵本の種類もあり、絵本を読むための幼児スペースもあるので行きやすく、利用人数が少ないイメージはない。読み聞かせにもよい施設と思う。

委員) 小さい子向けにはいいと思うが、小中学生になると電子機器に頼ってしまい、図書館へ行ってもパソコンを使って調べ物をする。参考資料や辞書など使わずに便利な道具で調べる習慣があるのも本を手にとらない原因かもしれない。

青少年健全育成

委員) 読谷村の交流は、一番寒い地方と暑い地方との交流で望ましい事業と思う。

委員) 読谷への派遣事業では、戦争の記念碑を見る機会や歴史を知る体験が良い。以前は相互交流もあって、夏は読谷での交流、冬に読谷から子どもたちが来て、雪やスケートの体験をしていた。旅行も体験となり、団体での行動や歴史を学んだりしており、民泊でもマナーを学べる良い事業だと思う。首里城の火災報道は、派遣された子どもたちもショックだったようだ。

芸術文化活動

委員) 郷土資料館の利用状況はどうなっているのか。

職員) 開館当初から比べると翌年度には大きく減少している。今年はコロナウイルス感染症の関係もあり、さらに来場者が減少している。来場者は60歳以上の方で町内の方の利用が多く、町外の方も高齢者の方の利用が多い。

委員) 郷土資料館も他町村から比べると池田ほど展示品の数が豊富などところはない。他町村は小さく自慢の施設である。豊富な数と整理もされている。施設の評判がいい。

委員) サークル活動は、働いている人が関われる芸術文化活動が必要と思う。田園合唱団が高齢化でなくなっている。

委員) 昔ながらの芸術文化活動には時間をさける人がいなくなっている。

スポーツ活動

委員) 各サークルや団体は高齢化で存続が厳しい状況であるが、体育館の改修や更新がうまくいっており、健康管理のためにジムに通う人が増えてきている。使い勝手もよく、町外からの利用者も多い。屋外施設の改修も計画的に考えてほしい。人口規模にあった施設整備を予算化してほしい。

委員) テニスコートは中学生も利用され、稼働率が上がっている。

委員) 中学校でもサッカー場やテニスコート、総合体育館など部活動で活用しており、施設は充実していると思う。しかし、テニス部も5人くらいで、人数が少なくなっている。生徒数も減って

おり、少年団活動も成り立たなくなっている。

委員)やはり、少子化、人口問題が課題である。

委員)高校生や中学生は競技によっては大人と一緒に活動できるが、子どもたち同士で成長していくような活動ができなくなる。

委員)施設は充実しているほうと思うが、改修は計画的に行ってほしい。スポーツ人口が減っているわけではない。高齢者はウォーキングしている人をよく見かける。

その他

委員)小さな子どもが遊べる公園や遊具がない。最近、足寄町の里見が丘では、子どもの公園が整備されている。プールや総合体育館、野球場、陸上競技場のほかに、子どもが集まれる大きな遊具もある公園ができています。町外からも来ているような施設で、足湯があったりする。同じものをというわけではないが、子どもが体を動かして、子どもたちが集まることで社会性を身に付ける機会にもなる公園が必要である。

委員)総合的な開発でワイン城周辺を整備する計画はないのか。一番人が集まるところで、以前には観覧車があったりしたが、周辺に子どもが遊べる遊具があったり、総合レジャー施設となれば道の駅的に活用できるので、子どもたちが遊べる遊具などを整備すると人がもっと集まってくるのではないかと。

委員)ワイン城の周辺が整備されると、ふるさと教育にもいいと思う。

委員)サッカー場が管内でもよいコートで、よく大会も開催されている。

(令和2年8月20日令和2年第2回池田町まちづくり会議)

専門部会協議結果報告：産業振興部会

1) 出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

十河委員、萬委員、上口委員、小原委員、遊佐委員、土屋委員、美濃委員

2) 出席状況：町職員等

大堀産業振興課長、安井ブドウ・ブドウ酒研究所長、長谷川企画財政課主幹

3) 協議の内容

前回に引き続き、基本目標「産業振興分野」を中心に協議した。

農業

委員) 十勝管内平均耕作面積より 10ha 少ないことから所得が少ない。今後所得を増やす方法は畜産と野菜等（高収益作物）の複合経営しかない。JA 合併後は独自のブランド力をつける必要があり、商工会でも商品を取り扱ってもらいたい。

施策：スマート農業の推進・農業従業者（外国人）住宅の確保

農業基盤整備、環境保全型農業

委員) 近年、50 年に一度と言われている大雨が続いている。今後もあると思うが池田町は、利別川と十勝川に挟まれた土地であり、過去から水害による被害が多いため、農地の排水対策は永遠の課題、また畑に雨水が滞水しないように客土も継続的に実施が必要

施策：基盤整備事業の継続、排水機場の維持管理

農村地域活動

委員) 高校生ホームステイを長年受け入れているが受け入れる家庭が大変。妻が準備する食事の世話が大変。

職員) 高校生からは大変好評なので今年は中止だが来年から継続したい。受け入れ農家の苦労は十分理解している。

委員) 都会の高校生はすべてが初めての体験のため、作物がどのように育っているのかわかる機会がないので、これをきっかけに十勝、池田のファンを作ることも大切。

司会) 文章後半に配偶者対策と書いてあるが、町で数年継続しているが成果が出ていない。総合計画に記載し取り組む事項なのか？

委員) 過去に青年部でパーティーを実施したが参加者が少なかった。町内参加者もイベントを実施することが中心になり、その後は継続しなかった。

委員) 最近の若者は SNS を利用した出会いもあるが...

委員) SNS で知り合い結婚まで行った事例もある。今後は新たな取り組みの方法である。

委員) 農業青年等となっているが商工も同様、町内全域の対策なのではないか？

施策：食育の継続・配偶者対策

林業

委員) 林業は50年計画の長い仕事であるが、山を大切にしないと里が荒れると言われている。災害防止のためにも管理は重要。十勝人工林はカラマツが主である過去はパレット材等が主力であったが、乾燥技術向上により建築資材に利用できるようになった。例としてオリンピック施設の柱、高層建物にも利用されるようになった。しかし、十勝には加工施設が無いため付加価値がつけられず原木単価となっている。皆伐後の山を大手が買収している傾向がある、ニセコ等は外国資本が購入しているが、そうすると十勝、池田に費用が落ちない。すべて持っていかれるので売地は買うようにしている。

施策：担い手不足の解消・皆伐後の造林対策

商業

委員) スーパーも含め町民の多くは帯広方面で買い物をしている。地理的に近隣のため理解できる。町内の個人商店は厳しい。

委員) 幕別本町・豊頃から池田マックスバリュに来ている。20年後の人口は4千人となるが、町民が生活できるように最低の1業種1店舗となるのではないか？

委員) 農家にとって池田の渡商店重要、この店だけは残しておかなければならない。

委員3人) 必要性を感じている。

工業、建設業

司会) 前回ダンプも建設資材店もない町外に依存していると意見があったが、個人で企業しても通年業務が無いと思うので建設業会で出資して新会社を設立することは無理なのか？

委員) 検討したい。

委員) 農家も町内にダンプが無いことに困っている。豊頃・本別に依存しているが、町内にあることが望ましい。JA合併後はJAが町の産業に積極的に参加していくことが必要。豊頃共同運輸はJA豊頃100%子会社なのでJA池田も同様に運送会社に関与してほしい。

企業誘致

司会) 企業誘致は進んでいないのが現状、行政として誘致手法に限界があるので近隣町村も進んでいない。

委員) すべて行政ではできないので、手法を持った人の知恵を借りるべき、沖田コンクリートが廃業すると聞いたが跡地利用はどうなっているのか？

司会) 現在のところ跡地利用の計画はない。

委員) あの場合は、国道に隣接し大きな面積なので人が集まる施設にするべき、今は道の駅が週末たくさんの人が集まっている。

委員) 現在も計画があると思うが、池田から帯広空港まで道路計画があると思う。早期着工の要望をあげて完成させると空港とのアクセスが良いことを利点に企業誘致も進むと思う。

施策：公共事業と災害対応のために必要は業種の育成

観光

職員) ワイン城の観光客はすぐに帰ってしまうので、観光と収穫体験・作物生育見学等池田にいる長時間いる観光コースが必要と思う

施策：リピーターが来る魅力ある観光施設の工夫、住民主体のイベントが必要

ブドウ酒事業 - 事業全般

(意見なし)

ブドウ酒事業 - 地域連携

職員) 地域連携で小原氏の意見のとおり見学の観光に体験を加えることで付加価値を付けることは大切と思う。ワイン城ではブドウ収穫体験が可能、期間限定で行えると思う。

委員) 畑の防疫も留意が必要だが、場所を特定してれば解決できる。

施策：ワイン城での住民を交えたセミナー等

労働環境、勤労者福祉

(意見なし)

施策：若者の職場確保

消費者保護

(意見なし)

施策：消費者協会による相談、消費者トラブル防止の啓蒙活動強化、高齢者対策

(令和2年8月20日令和2年第2回池田町まちづくり会議)
専門部会協議結果報告：生活基盤整備、移住交流部会

1) 出席状況：部会員（池田町まちづくり会議委員）

太田委員、郷司委員、神内委員、村瀬委員、平井委員、角谷委員、小林委員、森尾委員

2) 出席状況：町職員等

餌取総務課長、酒井町民課長、畠中建設水道課長、齋藤企画統計係主査

3) 協議の内容

前回に引き続き、基本目標「生活基盤等分野」及び「協働のまちづくり、自治体運営分野」を中心に協議した。

司会) この部会の担当として、第5次総合計画の施策体系における基本目標「生活基盤等分野」及び「協働のまちづくり、自治体運営分野」となることを再度説明、議事に入る。

前回生活基盤の中で、施策：公園、緑化において、子育て世代が望む総合的な公園整備や、施策：住宅、宅地において、帯広市のベッドタウン構想などが出されていたと思うが、政策：生活交通について、から始めていきたい。皆さんの意見を聞かせてください。

現在コミュニティバスが走っているが、利用したことがあるか聞くと、約半数程度が手を挙げたが、個人的に利用している人は少ない。2年間、デマンドバスの試験運行を行ったが、その利用についてはどうか。デマンドバスの試験運行の総括について、今後の方向性について、担当課長より説明してもらおう。

生活交通

委員) 千代田のコミセンにふまねっとのバスを出してもらっているが、それがそうか。

職員) それはデマンドバスとは異なる。

委員) デマンドバスとはどういうものをいうのか 担当課長より説明

委員) 東台では会館に集まって、そこからの利用だったので、会館までの送り迎えが必要なら、便利さはあまり感じられなかった。

委員) 池田に住んでいる年寄りみんな元気で自分で車を運転しているので、不要では。

職員) 免許を返納したりする人も増えてくると思うので今後必要となってくるのでは。

職員) 運行試験中では特定の人利用が多く、電話で予約するのが面倒との意見も聞いている。

水道、下水道

職員) 担当課長より、現状についてと災害時の早期復旧のための計画の策定について。

委員) 水洗化率について、90%半ばとなっているが、100%と近くとはならないのか。

職員) 新しく建てる場所はもちろん100%となっているが、古くから住んでいて水洗化していない人は今後も見込めない。

委員) 昭栄では水道を引くにはお金がかかるので井戸水を活用している。水質が怪しいので高価なフィルターを活用している。

住宅、宅地

委員) 他の自治体では、中古住宅を購入して、リフォームして貸し出すということを耳にするが、池田町では推進しないのか。

委員) 公営住宅を街中に整備しているが、わざわざ土地を購入してまで実施する必要があるのか。

職員) 低所得者向けの公営住宅については、充足されていることから、5年間建設をしないことにしています。今後は、お話があった場所については、浸水区域にあることから検討を要します。中・高所得者向けの2LDK以上の住宅については、不足しているので、補助金により、民間でのアパート等の建設を期待しています。この補助を活用し、今年度については、5棟8戸が建設される見込みとなっています。

委員) 何年も前から言われてきているが、いまだ実施されていない。子育て世代が住みたくなくなるような公園の整備や子育て環境を整備しないと池田には住んでくれない。

職員) 子育て支援策はある程度充実している。町内の規模の大きい事業所では池田に通勤している人も多い。状況を把握しているわけではないので、アンケート調査等も必要と考える。

環境保全

・池田でも太陽光発電の促進は進めている。住宅建設時等には補助金もある。但し町内事業者を活用することが条件であり、最近の申請数は減ってきている。町内のいたるところで太陽光パネルが設置されている。

委員) 太陽光を設置すると補助が出るのは初めて聞く、活用したい。十勝の他のまちではバイオマスエネルギーの余剰熱でバナナなどハウス栽培もおこなっていると聞く。池田町でもできないか。

職員) 池田の酪農・畜産の規模は小さい、十勝高島牧場は500頭規模で可能性はあるが、他の町と比べるとまだまだ少ない。

環境衛生

ごみ処理、資源循環

委員) 町内でもよく不法投棄が見られる。一度ごみがあるとさらに増えてくる。東台でも多いが、千代田でも多いと聞く。

委員) 不法投棄までではないが、帯広浦幌線など道路の周りにごみが捨てられている。

職員) 捨てられた場所や管理する場所により管轄が異なる。

委員) 捨てられたごみなどを拾い集めたら、町は引き取りに来てくれるのか。

職員) 連絡をいただければ取りに行きます。

委員) ごみの分別は転勤者や公営住宅に住んでいる人の仕分けが悪い。

職員) 広報やごみの分別について保存版で周知しているが、町内コミュニティの不足や高齢化により分別が難しくなっている場合もある。

職員) 今は、プラスチック製の容器包装を収集しているが、現在、燃やせないゴミとして収集しているプラスチック製のおもちゃの一括収集を、早くて2022年度からはじめることを、国で検討しているようだ。高齢化でごみの分別が大変だと話を聞く。資源ごみを単純に事業系ごみも含めた一般廃棄物で求めたりサイクル率は35%弱で、プラスチックごみの一括収集が行われれば、処理や収集での課題もあるが、分別がし易くなりリサイクル率の向上が期待できる。容器包装プラスチックもそうだが、市町村で収集するかしないかは、選択可能。

広報広聴、情報公開

委員) 防災ラジオの提供で、防災以外の情報も提供可能となるか。

職員) 北朝鮮のミサイル発射や災害など、差迫った情報が中心となる。

委員) この間の庁舎爆破予告について、知らされていない住民が多くいたが、そのような場合は。

職員) 必要と判断されれば行うが、爆破予告については、愉快犯の可能性もあるので大騒ぎしている様子は見せたくない判断し、庁舎周辺の民家のみには知らせている。

委員) 学校にも知らせていたのか。学校の先生は知らなかったとっている。

職員) 学校にも連絡している。校長・教頭までで止まっている可能性はある。

地域コミュニティ活動

委員) 公区長制度から自治会制度へ移行を図ってきたが、自治会(町内会)の維持が難しくなり、逆戻りになる可能性がある。退職後も70過ぎまで働く人が多く、役員のなり手がいない。何か対策は。

職員) 一部も自治体でも実施しているが地域支援員の活用や、役場の職員が地域に張り付くなどの検討も必要。

国際交流、地域間交流

(検討せず)

移住

委員) 新聞や広報でみているが、地域おこし協力隊が採用され活躍が期待される。今後も続けていくのか。

職員) 今年度4人募集し、3人が採用となっている。次年度以降についても同程度の人数は募集していきたい。

職員) 実査に移住してきた人の意見も聞いてみたいと思いますが、いかがですか

委員) 北海道へのあこがれを持っている人はたくさんいる。いろいろと調べたり、実際に来てみて肌で感じたり、住情報ステーションはよく活用した。人とかかわりも大事。女性は特に水回りやトイレ環境に敏感。

司会) 本日は時間となりましたので、この辺で終了とします。今後さらに数回開催予定があります、よろしくをお願いします。

(令和2年8月20日令和2年第2回池田町まちづくり会議)

その他：町議会からの説明(質疑応答)

経過等：7月29日まちづくり会議報告書より

委員より、先の池田町議会定例会議における「池田町農業委員会の委員の任命につき同意を求めらるる件」に係る審議等経過に関し、町議会議長等のまちづくり会議への出席により説明を求めたいとする意見がありました。

委員発言の要旨

- ・ 3名の町議会議員が、農業委員会の委員の任命につき同意を求めらるる件に対し、その全員について同意しないとした行動への理由の説明を求めたいとすること。
- ・ 3名の町議会議員が、議員としての立場により特定の農業委員会の委員候補者の推薦者となっていたことに対し、町議会としての見解を求めたいとすること。
- ・ 町議会の審議は、まちづくり会議や住民参加による審議会等の意見を十分尊重したものとなっているか、町議会としての説明を求めたいとすること。

事務局

冒頭に説明していますが、町議会から丹羽議長が出席頂いておりますので、議長からご説明をお願い致します。

丹羽議長

予定の時刻を過ぎての活発な意見交換、本当に頭が下がる思いでございます。大きく2点について発言を求められていますので、簡潔に話したいと思います。

「住民参画による各種会議等の審議結果を、議会としても踏まえてやっていきなさい」というご意見かと思えます。まさにその通りでございますが、私事を申し上げて申し訳ないのですが、そちらに(委員の中に)小山 前 教育長がいらっしゃいますけれども、私の経験としても、こういう場に籍を置かせていただいたことがありまして、教育環境等の整備に関してということで、中学校の改築がらみの関係でしたが、そこで得た結論と議会の結論が大きく違った、そういうことがありました。皆さん夜遅くまで協議したことが議会でひっくり返ってしまう、一町民として疑問に思ったことが、議会に出ようと思った一つの動機でもあります。

本当に、皆さんが、予定時間を超過しながらも活発に議論されたことが、この後どうなるのだろうと思われて当然だと思います。今日、議長の立場で出させて頂いておりますが、今後 総合計画に関しては、7/31に一度所管事務調査をさせて頂いております。今後もそのような課題をもとに調査をしていくこととなりますけれども、私は立場上どちらの委員会にも所属して出席できますので、その中で、今日生で見させて頂いた皆さんの議論を、しっかり議員の皆さんに伝えていきたいと思っています。

もう一点、議会の中で提案していきたいと思いますが、先ほどの今日の意見を集約したものを各委員さんに配られるという事でしたので、あと12枚余分にコピーを取っていただいて、委員の皆さんがどういうご意見を出されていたかということをご議論の方でしっかり受け止めさせて頂くことが、それぞれの思いにそごのない形になろうかと思っておりますので、そういう方向で今後進めて行き

たいと思いますので、ご理解頂ければと思います。

二点目については、農業委員の任命に係る件についてですけれども、審議経過を簡単にご説明させていただきます。

7月の任期満了にあたりまして、6月第1回定例会議において、町長から農業委員会の委員の任命につき同意を求める件16件が提案されております。町長から提案説明として農業委員会等に関する法律の規定により、議会の同意を求めるものであること、そして、16名一人ひとりの住所・氏名・年齢が述べられております。説明終了後、質疑を行うのですが、そこで3名の議員がそれぞれ...、簡単にまとめてしまえば「法の精神に反した公募手続きではないか」との発言があり、それに対してまして、町からは...、これもまとめてしまえば「適法に、適切に、選任しての提案である」ことが答弁されています。そうしたやり取りの後、新たなものがなく、質疑を終結致しまして、同意1号から16号まで1件ずつ、「原案同意にご異議ありませんか」ということでお諮りしましたところ、いずれも「意義あり」という声がありまして、全件、起立採決を行ったところ、同じように議員3名が全件不同意、残る8名は賛成とされたことから、いずれも議会としては原案同意と決定したところであります。通常ですと、「異議あり」の声があると、討論を行います。ただ、池田町議会の運営に関する基準というものがありまして、それには、「人事案件に対する討論は省略するのを例とする」という先例がございます。それはなぜかと言いますと、人事案件については、個人のプライバシーですとか、そういったことに立ち入った発言、なぜ同意しないのかという意見を述べるのではなく、粛々と「同意か、不同意か」ということを先例としてやっております。それについては、例えば教育長ですとか、副町長ですとか、同意案件がありますけれども、その人事案件については討論をしないこと、ですので今回の事については、あくまで議案として提出されましたその方が、農業委員として適切だと思う方について、8名の方は適切だという判断をされて、それが議会意思ということになった、ということであります。補足を申しますけれども、議会の意思決定とそれぞれの議員の意思との関係ですが、議会は多数決原理が規定されています。個々の議員の意思が直ちに議会の意思となるものではなく、個々の議員は単に議会意思の決定の為の評決に参画し、賛否の意思を表示するにとどまります。その個々の議員意思の集合が、結果として多数となったものをもって議会の意思とするものでありまして、個々の議員の意思が何であったかは問題とされない、そういうことが、議会の意思と議員の意思の関係であります。

皆さんご承知のように、昨日の新聞で、3名の議員の全員を不同意としたということにつきまして、農業者の方から「どういうことなんだ」と、「その理由を議会として明らかに示して」と頂きましたが、またそれについては「議会広報等で明らかにすべき」と、また、それぞれの議員の出处進退についても申し入れを頂きましたけれども、新聞にもありましたが、議会としての答えと致しましては、6月18日に8名の議員が同意した、それが議会の意思としては全てであります。個人の意思との関係は先ほどの申しあげたとおり、8人が賛成で3人が反対ということで、それに従う私を入れると4分の3が同意したという結論でございます。

それが、今回の農業委員選任に関する経過ということでございます。

長くなりますので、質問等があれば頂きたいと思っております。

事務局

町議会議長から説明がありました。議会としてもまちづくり会議の議論を十分尊重して...ということでありましたので、そのことはそれでよろしいかと思います。農業委員の件につきましては、ご説明頂いたところですが、何か質問があればお願いします。

美濃委員

丹羽議長、お忙しい中ありがとうございました。

議会は傍聴し、議員さん達のお話も聞かせて頂き、議長とも直接お話もさせて頂きました。この件に関して、どうしてこんなことになるのだろうと... 議員の中に、二元代表制の思想と言いますか、そもそも「二元代表制」というものはないのですが、「二元代表制を堅持する」といった言葉がよく使われますが、そこには町民が入っていない。役場と議会。どうもそれがあるのかと思っています。

これは提案ですが、今日は議長さんに来て頂いたが、議員も皆さんも、時間があれば住民の生の声を聴いて頂きたいなと思います。ぜひお願いします。

議会内で、議員の発言、非常に...恫喝というと語弊があるかもしれないですが、同意を強要する、自分の意見を同意させようとする、そういう発言、高圧的な発言というのはいかかなものかと思えます。議長は限られた権限と言われましたが、それにはできるのではないかと思います。

こういう小さな自治体で認められるかは分かりませんが、事前に質問等をすり合わせる、そういうことも必要ではないか、池田町の場合、活発な議論になる。役場の職員が議会対応に物凄い時間を費やしている。これは改善したほうが良いと思う。私たち住民は、議会と行政の対立だとか言われるが、もっと紳士的に話し合いができないのかと、そういう思いを持っています。

公務員というのは、町民の生命と財産を守るのが第一、これがどうしても議会対応となると、議会の方に目が向いてしまうのではないかと、そうは思わないが、そういうことが起きないか、そういう気持ちが私にはあります。大いに議論するのは結構だけれども、それが唐突に出されて、それに追われてしまうと、これは私たち住民にプラスにならないのではないかと。これから、総合計画で職員の方々は忙しくなると思うが...

それと、企画財政課の方々が取りまとめした文章をお渡しするということがあったが、ある程度まとまった段階で、議会の委員会に話を持っていっているような話をちらっと聞いたが、それならば、議員の皆さん、こちらに来てよ、という思いは少ししている。委員会に提出して、議員さん「これはダメだよ」と言ったとき一体どうするのか、行ったり来たりまたするのか、議員が否定するのは構わないが、その内容について、どうしてダメなのか、きちんとした論点をしっかりして、ここはダメだよではなく論点をはっきりしないと、我々は一体何のために話し合いをしているのか、職員の方も事業計画、何のためやっていたんだと...「見直せ」となっても...、そうなるモチベーションも下がってしまうので、ぜひそういうことも踏まえて、議員一人ひとり、個人のことで、議会としてどうするとかは非常に難しいが、ぜひ、お願いしたい。

私は、池田町に生まれ育ち、この先も池田町で過ごすと思うが、子や孫にこの池田町をしっかりとした形で残したいと、そういう気持ちでまちづくり会議に参加し発言させて頂いています。ですから、議会でも、「対立」だとか「対峙」だとか言わないで、みんなでこの町を良くしようと、議員の皆さんに汗をかいて頂きたいなと思います。よろしくお願い致します。以上です。

丹羽議長

貴重なご意見、ありがとうございます。本来、一つひとつお答えすべきことだと思いますが、美濃委員の思いは十分受け止めさせて頂いて、特に住民の生の声を聴くということにつきましては、先日議会でも話題となっていた学校統合の件につきましても、教育委員会が説明する席に多くの議員が傍聴に行って、実際にその様子、保護者、住民の意見を聞かせて頂いて、最終的に自分の議員としての行動に反映したと、中にもそういったことは意味がない、自分は自分なんだとおっしゃる

議員がいるのは現実ではありますが、議会改革は、議員一人ひとりが変わっていかなければ、真の議会改革はできないということですが、議会の中で意見が分かれることもありますけども、議員になったからには、町民の代表としてそれをいかにすり合わせていくかという、大事な町民の負託を受けて出てきておりますので、接着剤となっただけなのは、やはり皆様からのご意見なのかなと思いますので、皆様それぞれお立場を持っておられるので、議会でなかなか、町政懇談会などで肩書を持った方々がなかなか意見を言いづらいかもしれませんが、美濃委員さんには何度か来て頂いてご意見を頂いたことがあります、今言った意見、私が聞いたことを議員の皆さんに説明しますけれども、是非、そういう場において頂いてご意見を頂ければと思います。

(一部略)全議員が聞いておりますので、必ずや良い議会になるためのお力添えだと思いますので、皆さんそれぞれのお立場でご意見を賜って頂ければと思いますので、よろしくお願ひします。

こんな事しか申し上げられませんが、気持ちとしては十分汲ませて頂きました。

議員には、発言自由の原則がありますけれども、度を越したものにつきましては、議事進行の中で整理していきたいと思っておりますので、また、私に対しても、「あの仕切りは甘いよ」など。そのようなことも、まちで会った時に言っていただければと、ビデオを見返しながら、皆様の望むような対応に努めていきたいと思っております。

貴重なご意見ありがとうございました。

事務局

丹羽議長、ありがとうございました。この件に関しては、以上で閉じさせていただきます。